

2 救急対応が必要な状態

- 1 呼びかけに反応しない（意識がない）。
- 2 呼吸をしていない。→ すぐに心肺蘇生を開始。
- 3 5分以上けいれんが続いている。

すぐに救急車を
呼びましょう。



- 4 ぐったりしている。
- 5 いつもと泣き方が違う。あやしても泣き止まない。
- 6 顔色が悪く、肌に張り、つやがない。
- 7 お乳、飲み物を全く受けつけない。
- 8 おしっこが出ない。
- 9 嘔吐下痢が止まらない。激しくおなかを痛がる。
- 10 息がゼーゼー、ヒューヒュー苦しそう。咳がひどい。
- 11 高温多湿の場所に長時間いたあとの高熱。
- 12 生後3カ月未満の発熱（38℃以上）



1 2 3 の場合はすぐに救急車を呼びましょう。

他の場合は、休日、夜間であっても小児科当番医や小児救急病院を受診しましょう。翌朝まで待てないお子さんが、受診が遅れて重症化しないように注意しましょう。

ただし発熱等があっても、上にあげた症状のいずれにもあてはまらなければ、翌朝まで待っても大丈夫な場合がほとんどです。夜間の受診は、長時間の移動や待ち時間がお子さんの負担になり、かえって症状が悪くなることがあります。症状の変化に気をつけながら翌朝まで経過を見て、診療時間内に受診しましょう。